

◆**箕面** 8/13(日)、「廃品回収を行う人たちとともに歩む」をテーマに、「毎月暁光会に送っている空き缶や段ボールがどのように役立っているか、改善点はあるか」等、暁光会で取材したことを分かち合った。また、この活動を始められたバラード神父のことや、神父に影響を与えた北原怜子さんやゼノ修道士の活動を学んだ。



◆**池田** 8/6(日)、平和祈願ミサ後、故中村哲医師のアフガニスタンでの用水路事業の記録DVD「用水路が運ぶ恵みと平和」を鑑賞し、分かち合った。中村医師は、武器ではなく農具によって地域に平和をもたらすことを証明した。武器に頼らない平和のすばらしさに気づいた。



◆**高槻** 8/6(日)～8/15(金)、各自が祈りのことばを短冊に書き、聖母被昇天ミサで奉納。ミサでは、教皇メッセージから抜粋した文を配布し、立て看板に祈りのことばを掲示した。「祈りのことば集」として印刷して配布した。



◆**吹田** 8/6(日)はテゼの歌による祈りの集い、8/13(日)は、ロザリオの祈りや平和を願う祈りに役立つ画像を見ながら、心を合わせて祈った。人との交流が小さな平和となり、それがやがて大きな平和になることに気づいた。



◆**大阪梅田** 7月から各国語で作っていた平和メッセージボードをミサで奉納。8/6(日)は『Hola! 出来島!!』の鑑賞会。8/13(日)は平和をテーマにした絵本の読み聞かせ。8/20(日)は、いろいろな文化を持った方々の交流パーティ(食事やダンスなど)を開いた。



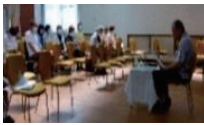
◆**関目** 8/6(日)、8/13(日)、「不安を吐き出し、平和を積み上げよう～キーワードは『愛の反対は無関心』～」というテーマに沿って、各自が祈りの言葉を考え、ミサで奉納した。すべての人が参加できるように工夫して企画した。ミサ後の茶話会では田仲仁さんの演奏を聴き、田仲さんのチャリティコンサートへの参加を呼びかけた。



◆**今市** 8/6(日)～8/15(火)、自宅毎日平和のために祈った。13(日)は、「荒野に希望の灯をともし～医師・中村哲 現地活動35年の軌跡～」のDVD鑑賞をし、中村さんの遺志を受け継ぐ人々の思いを考えた。この1年間に亡くなった方の遺影を祭壇前に置いて、合同祈念祭をおこなった。この祈念祭は毎年お盆の時期に実施しているため、平和旬間の行事に入れた。



◆**門真** 8/13(日)、ミサで平和旬間の意義を知り、ミサ後に高山右近の生涯をDVD鑑賞し、元・右近と歩む会の三島克己さんに講演いただいた。当教会では主日ミサで「福者ユスト高山右近の列聖を求め祈り」を捧げており、右近を通して平和を願い、8月を「平和」がテーマのロザリオ月間とし、ミサ前にロザリオの祈りを唱えた。



◆**大東** 8/13(日)、平和への願いを短冊に書いてオリーブの枝に付けて奉納。憲法9条の理念を米国側に伝えた幣原首相についてのDVD「しではら」を視聴し、分かち合った。絵本「戦争の作り方」も参考に、平和を作るために自分たちができることは何かを考えた。



◆**香里** 8/6(日)、「カトリック教会と環境一私に何が出来るか」と題して、聖コロンバン会のマッカーティン神父の講話をお聞きした。当教会では昨年度から、環境問題についての勉強会が続いてきた。戦争が一番の環境破壊であるという観点から、この問題についてもっと関心を持ってほしかった。多くの方が参加された。



◆**枚方** 8/13(日)、入管行政の下で困窮する外国人を支援し続けている、長澤正隆終身助祭(北関東医療相談会事務局長)の活動を紹介したDVD「私のガリラヤを生きる」を視聴。参加者の思いを書き留めて、聖母被昇天ミサで奉納した。参加された方々が、「自分にとってのガリラヤ」でのスモールスタートにつながる一助となったようだ。

◆**大阪田辺** 8/6(日)、1945年7月にこの地に投下された模擬原爆について、地域で模擬原爆の実相を伝えるために活動しておられる方を講師に招いた。地域では以前から、模擬原爆の犠牲者への慰霊祭が行われ、多くの子どもたちが参加している。今回は、模擬原爆を語り継ぐ会の協力で実現した。これを機に、地域の人たちとも連携をとっていききたい。



◆**藤井寺** 8/6(日)、平和祈願ミサ後、今市教会の三島克己さんから「日本の歴史的事実を追う二度と過ちを繰り返してはならない」というテーマで講演をお聞きした。三島さんは、戦後経済の絶望からカトリックの信仰に出会い、反戦・平和活動を続けられた。日本が戦争に向かっていくプロセスがよく分かったなどの感想があった。

◆**堺** 8/13(日)、平和祈願ミサ(司式・カレンガ神父)の後、ベトナム戦争のビデオを上映した。遠く戦争は現地での残虐行為の実態が伝わらない、戦地に行くのは若者だ、国民は翻弄されるだけではないか、などの感想があった。



◆**金剛** 8/13(日)、集会祭儀後、DVD『軍隊がいた島』の上映会をおこない、沖縄・慶良間諸島での「集団自決」や、「従軍慰安婦」たちの写真から、戦争の悲惨さ・残酷さを思い知らされた。風化しつつある戦争の悲惨を伝えていく義務があるなどの感想があり、いのちの尊厳について考える恵みの時となった。



常に考えるテーマでさまざまな意見を分かち合うことができた

2日目、朝の祈りの後、香里ヌヴェール学院小学校副校長の西村佳也先生から講話があった。私立学校と公立学校の現状についての話のあと、なぜ先生になったのか、なぜカトリック学校を選んだのかとの問いかけがあり、「やりたいこと」と「与えられること」は異なることがあるが「神様が私を

使ってくださいました」という思いに至った話があった。2日間のプログラムで3回の分かち合いがあった。日々の児童・生徒との関わりを共に

有しながら「カトリック学校の使命・教員として何が出来るか」というテーマで意見がなされた。

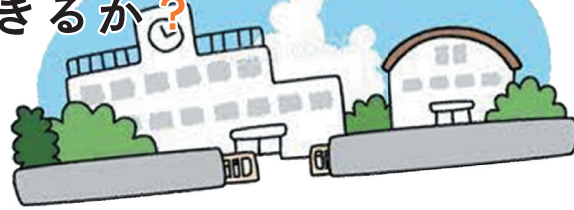
一人ひとりを大切にしたい、生徒の豊かな心を育むように努めたい、人とのつながりを大切にしたいという意見があった。また、卒業生として講演した富和さんが、担任の先生が神父様であったことが大きかったと強調されていたことを挙げ、今後は自分たちが神父、シスターに代わってカトリック精神を伝えなければならぬことについて、厳しい表情で語り合った。

さまざまな方の協力があり、コロナ禍の前とほぼ変わらず養成会を開催することができ、感謝している。養成会参加者が養成会で得たことを、各学校生活でいかしてもらえればと思う。

(文) ヴェリタス城星学園 中学校・高等学校教諭 榎麻規子

第14回 カトリック学校教員養成会

カトリック校で働く使命・教員として何が出来るか?



8月9・10日(水・木)、第14回カトリック学校教員養成会がサクラファミリアで行われた。大阪教区、名古屋教区の小中高校から18校、30人の参加があった。

カトリックの理解者・後継者の養成を目的としこの養成会を開始して14回目を迎えた。教区教育推進委員会委員長、高島政行神父のあいさつと養成会の趣旨説明から研修が始まった。仁川学院小学校の前川和裕元教諭からある教え子との出会いと別れを通して、「共に生き、意味について気付かされたことやこれからの教員に求められることについての話があった。

明星中学校・高等学校卒業生で現在、医師をされている富利清訓さんは「今になって感じるカトリック校の良さ」について語った。中学生で阪神・淡路大震災の災害ボランティアに参加し学んだ「できることを考えよう、求められることをしよう」という姿勢が、現在所属しているDMAT(災害派遣医療チーム)での「何をしたいか、ではなく、求められることをしてください」という姿勢と重なること語り、思春期にいろいろなこと体験し、知っておくことは大切であると話された。



養成会を終えて新たな気持ちで教壇に向かう教職員